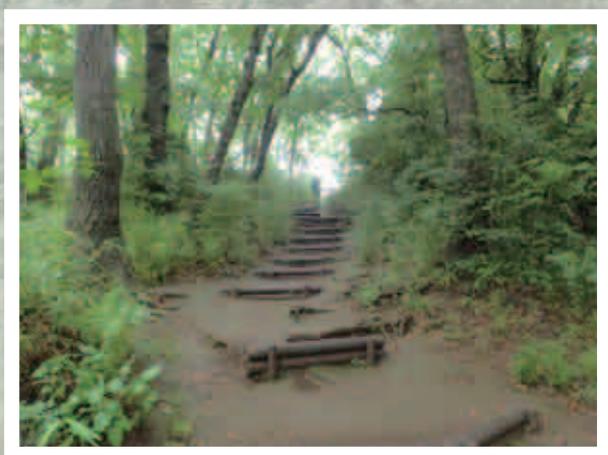


# 調布市崖線樹林地保全管理計画 (深大寺自然広場)



調 布 市

# 1. 計画の概要

調布市内に残されている崖線の緑は、自然の地形を残し、かつ市街地の中で区市町村界を越えて連続して存在する緑であり、東京の緑の骨格となっているとともに、崖線下には湧水や希少植物などの資源があり、都市化が進んだ東京の中で貴重な空間となっています。

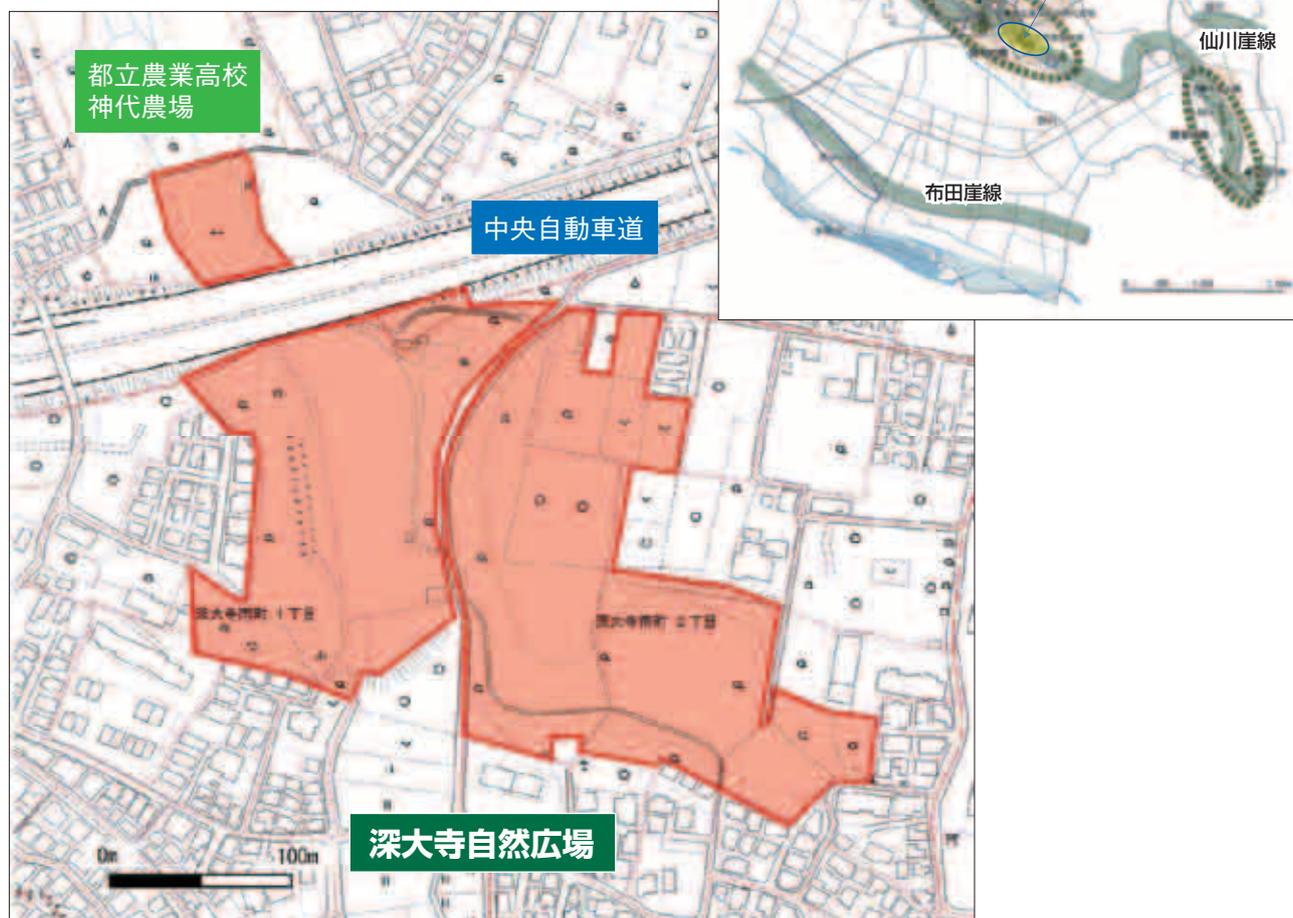
調布市では、緑の基本計画で緑の将来像「庭園のまち 調布」の実現に向けた基本方針のひとつに「調布らしい多様な緑をまもり、活用する」を掲げています。崖線樹林地をはじめとしたまとまりのある緑は、良好な景観を形成するとともに、生き物の生息・生育環境としても貴重であることから次世代へ引き継ぐべく、その保全・活用を図ることとしています。

深大寺自然広場として調布市が管理する国分寺崖線の樹林地において、自然環境の現状を把握し、樹林景観の維持や生物資源の保全と活用、生物多様性や利用者の安全性などに配慮した保全管理計画を策定いたしました。

市民の皆様のご理解・ご協力のもと、保全管理計画に基づいて貴重な崖線の自然環境を保全し、活用していくことを目指します。

## 1 対象区域の位置

対象地域は、深大寺南町一丁目、二丁目、四丁目に位置し、その多くが、都市計画神代公園（未整備区域）となっています。



対象区域の位置図

## ② 自然環境の評価

現地で行った自然環境調査の結果、計画地では、年間を通じて716種類の生物が確認されました。

樹林は、雑木林で見られるコナラやイヌシデ、シラカシなどの樹木が優占していました。アズマネザサなどササが密生している樹林では、見られる植物の種類が少なくなりましたが、下草刈りなど管理が行われているコナラ林では、貴重種のキツネノカミソリやキンランなどが見られました。

動物についてみると、生態系ピラミッドの上位に位置するタヌキの生息が確認され、鳥類や昆虫類については、エナガなど雑木林の林縁部や林内に生息する種が多く確認されました。

### 確認された生物の種類数

(調査期間：平成30年7月20日～平成31年4月24日)

調査項目	夏	秋	冬	早春	春	調査全体
	(7月)	(10月)	(7月)	(3月)	(4月)	
植 物	249種	320種	—	162種	289種	496種
哺乳類	4種	2種	—	—	2種	4種
爬虫類	2種	2種	—	—	2種	2種
両生類	0種	0種	—	—	0種	0種
鳥 類	6種	11種	18種	—	17種	22種
昆虫類	147種	105種	—	—	126種	192種
合 計	408種	440種	18種	162種	436種	716種

### 動植物調査で確認した重要種

調査項目	確認種数(種)	確認種
植 物	11	アスカイノデ、ウマノスズクサ、ニリンソウ、イチヤクソウ、アマドコロ、アマナ、キツネノカミソリ、ギンラン、キンラン、サガミランモドキ、マヤラン
哺乳類	0	
爬虫類	1	ニホンヤモリ
両生類	0	
鳥 類	5	アオゲラ、モズ、ウグイス、エナガ、オオタカ
昆虫類	2	ヒグラシ、コシロシタバ
合 計	19	

※重要種の選定は「環境省レッドリスト(2018)」及び「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)～レッドデータブック東京2013～(地域区分：北多摩)」に従いました。



マヤラン



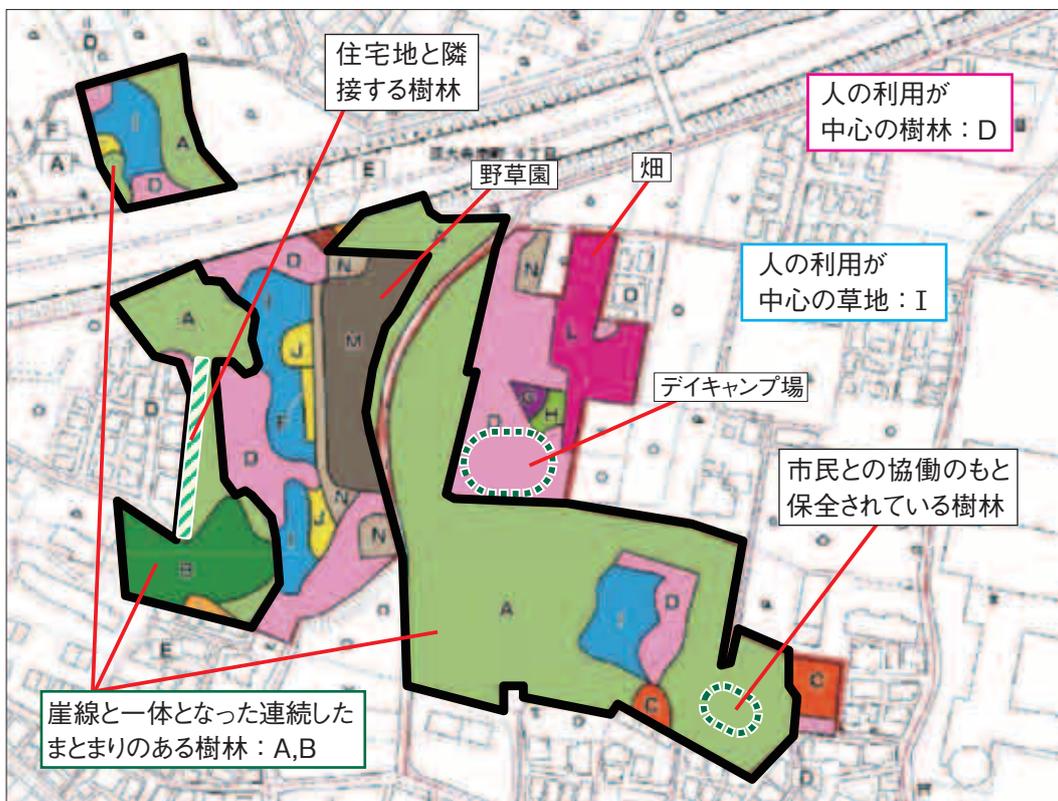
アオゲラ



ヒグラシ

### ③ 土地利用の現状

計画地の土地利用の状況を現存植生とともに以下に示します。



凡例	
■A: コナラ群落	■J: ヒナタイノコスチ群落
■B: コナラ・モウソウチク群落	■K: カセクサ・オオバコ群落
■C: 先駆低木群落	■L: シバ・ギョウギシバ群落
■D: 植栽樹林群	■M: オオブタクサ群落
■E: アズマネザサ群落	■N: 畑地雑草群落
■F: ススキ群落	■O: 野草園
■G: オギ群落	■P: 施設地・道路・裸地等

計画地の植生と土地利用図

## ④ 基本方針

### (1) 基本方針の考え方

計画地では、斜面を中心に樹木の密度が高く、高木の優占する樹林が残されています。樹林内では、ササ類などの下草や低木が成長し、荒れた景観を呈している箇所も見られます。樹林の保全管理では、間伐による密度管理や樹高の抑制、下草の管理が必要となります。

計画地は、レクリエーションの場としての利用も多く、周辺住民の崖線樹林への関心も高いことから、利用者や地元住民などと保全管理に関する情報共有をはかりながら、また、市民との協働による樹林維持管理について継続していくことが求められます。

保全管理計画では、基本方針をたて、自然環境調査結果や土地利用状況※(p2~3) などをもとに保全管理のためのゾーニングを行いました。各ゾーンでは、より具体的な保全管理方針を近隣の方々や保全活動を行っている市民団体からいただいたご意見なども取り入れながら、エリアに分けて策定しました。

### (2) 保全管理計画の基本方針

- ・ 調布市の自然環境の基盤となる緑地として、崖線と一体となった連続したまとまりのある樹林を適切に維持管理して保全する。
- ・ デイキャンプをはじめとして市民に身近に利用されている一方で、キンランをはじめとする重要種も多く見られる地域であることから、人の利用と生物保全の両方の観点から保全管理を行う。
- ・ 生活空間に隣接する樹林であることから、景観保全や安全に配慮した管理を行う。
- ・ 現在行われている市民による保全活動を軸とし、市民との協働のもと、樹林の保全や農との触れ合いの場として利用を図る。

### (3) ゾーニング

計画地は、保全方法や土地利用などの特徴から4つにゾーニングしました。

#### ① 環境学習ゾーン

野草園や林床植生保全エリアにより  
雑木林の環境が学習できるゾーン

#### ② 樹林保全ゾーン

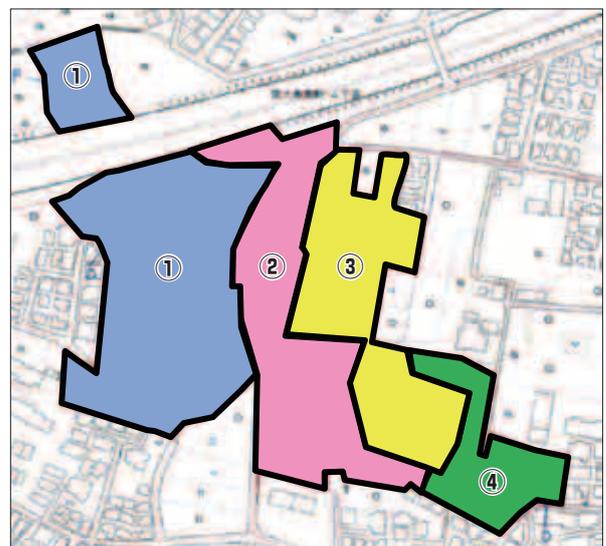
斜面林を保全するゾーン

#### ③ レクリエーション・里山ゾーン

キャンプ場でのレクリエーションや  
農作業を通じて里山体験ができるゾーン

#### ④ 保全管理・体験ゾーン

保全団体などとの協働による雑木林の  
管理と市民の雑木林管計画地のゾーニング



ゾーニング計画図

## 2. 保安全管理計画

### ①環境学習ゾーン

#### 野草園や林床植生保全エリアにより雑木林の環境が学習できるゾーン

##### ○管理上の課題

- ・西側が住宅地に接しており、樹木の枝の越境や落枝が懸念される。
- ・土壌が侵食され、表土が流出している箇所がある。
- ・野草園から、この地域の在来種ではない種が逸出している。

##### ○保安全管理の目標

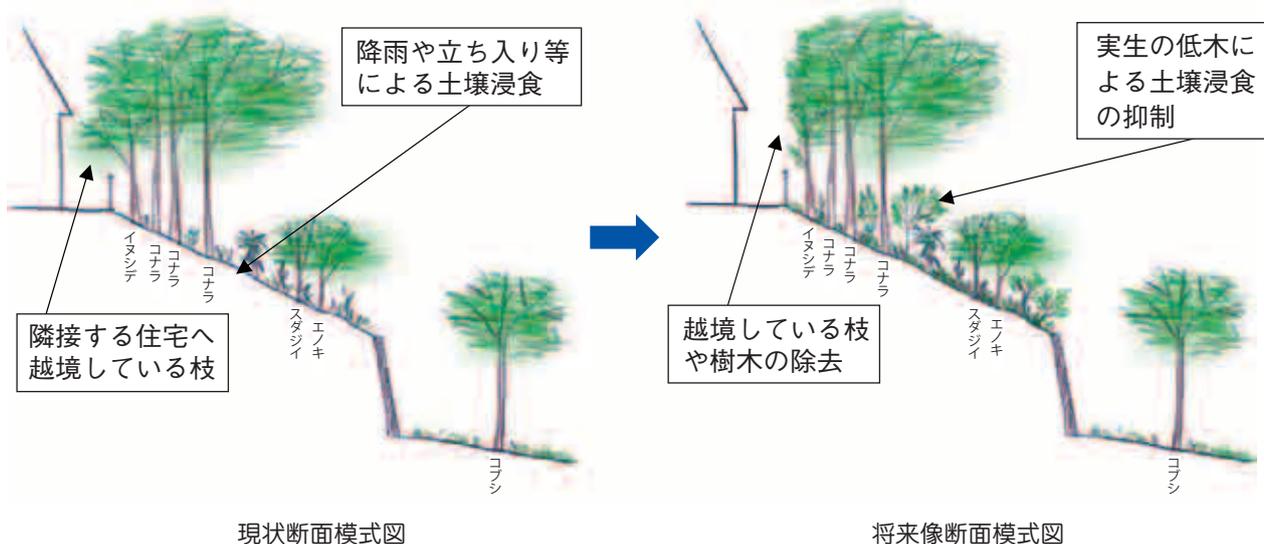
- ・崖線に形成されているコナラが主な構成種である雑木林。
- ・雑木林の植生が保全されている場所と野草園がセットとなった環境教育の場。
- ・人が利用する草地。

##### ○保安全管理の方針

- ・倒木や落枝などを除去し、周辺の住民や利用者への安全に配慮する。
- ・自然を保全する場所と人の利用する場所を現況の利用に合わせて区分する。
- ・土壌浸食を抑える。

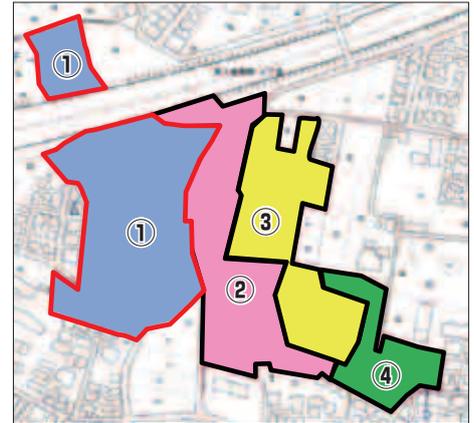
現状の植生と景観

樹林の構成種	林床の状態	現状（特徴的な景観）
コナラ群落, コナラ - モウソウチク群落, 植栽樹林群	林床管理型 常緑低木型 クマザサ・オカメザサ型 アズマネザサ密生型 公園管理型 無植生型	



## ゾーンの方針

- ・ 樹林の林床や植栽された樹木は現在の管理を続ける
- ・ 常緑の低木は密度が高くないように適宜間引く



ゾーニング計画（全体）

## エリアの方針

定期的な下草刈りによる  
林床植生の保護

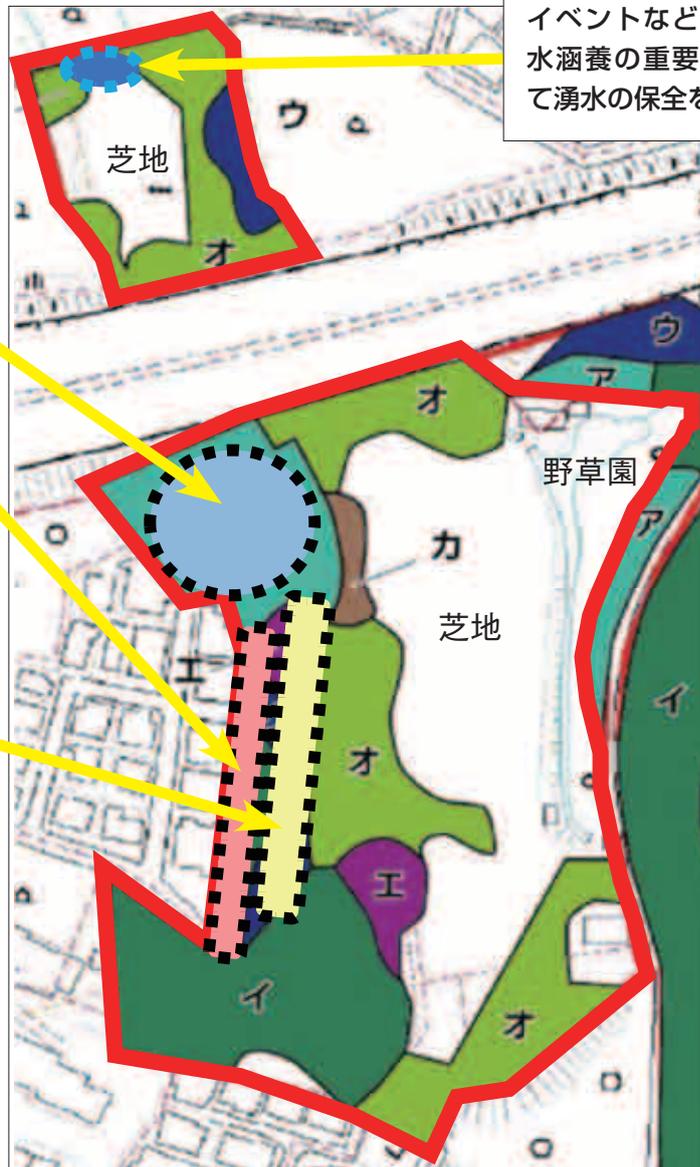
高木の剪定などによる近  
隣住民への安全確保

立ち入り制限や土留めな  
どによる土壌侵食の抑制

イベントなどにより地下  
水涵養の重要性を周知し  
て湧水の保全を図る

凡例

	林床管理型
	常緑低木型
	アズマネササ密生型
	クマザサ・オカメササ型
	公園管理型
	無植生型



環境学習ゾーンの保全計画図

## ②樹林保全ゾーン

### 斜面林を保全するゾーン

#### ○管理上の課題

- ・急傾斜地によって表土が露出，流出している箇所がある。
- ・台風などの影響で，倒木や落枝が生じる可能性がある。

#### ○保全管理の目標

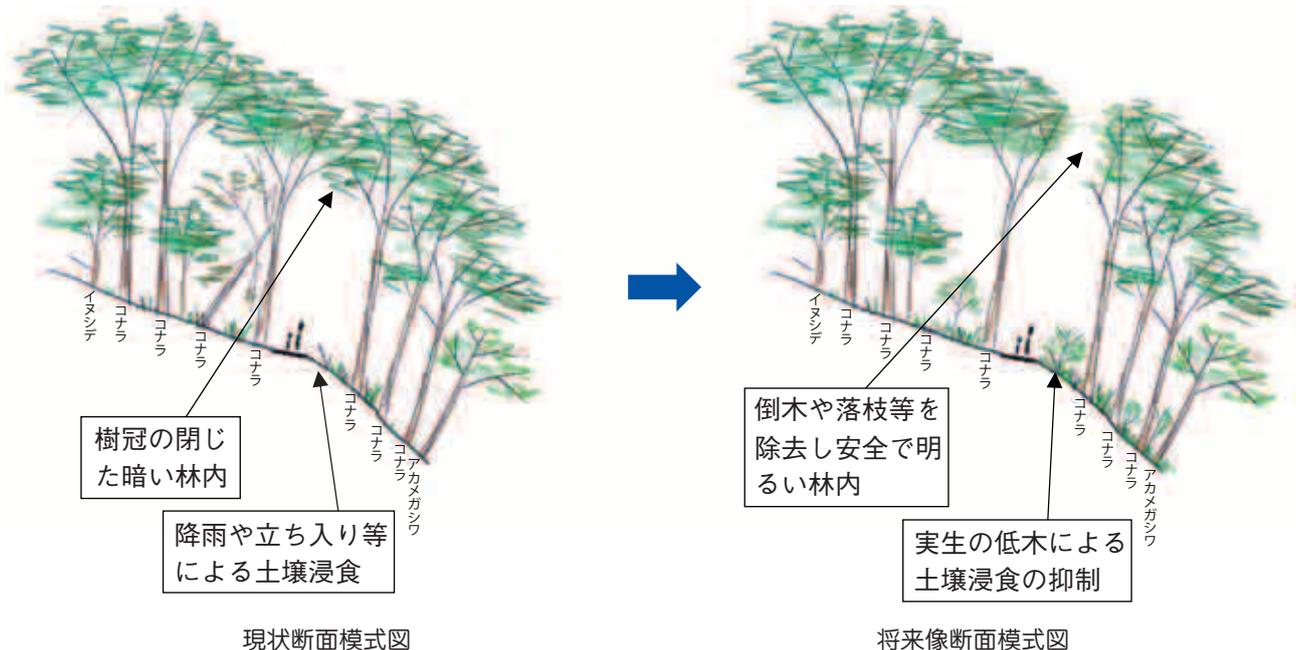
- ・崖線に形成されているシラカシなどの常緑広葉樹とコナラなどの落葉広葉樹からなる混成林。
- ・貴重な動植物の生育・生息場所。

#### ○保全管理の方針

- ・倒木や落枝などを除去し，周辺の住民や利用者への安全に配慮する。
- ・園路など人が利用する場所と樹林や生育・生息する生物を保全する場所を分ける。
- ・樹林は，自然遷移に任せるが，台風などによる倒木ですき間ができた場所にはコナラなど雑木林の実生を捕植する。
- ・急斜面からの土壌浸食を抑える。

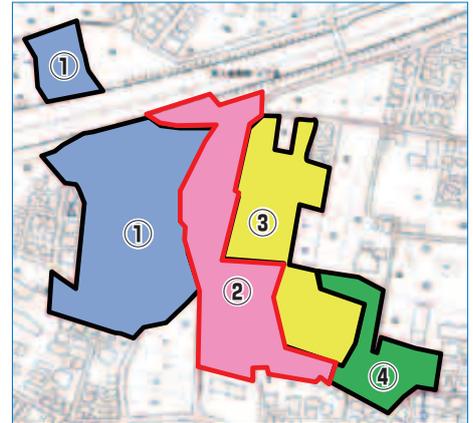
現状の植生と景観

樹林の構成種	林床の状態	現状（特徴的な景観）
コナラ群落	林床管理型 常緑低木型 アズマネザサ密生	



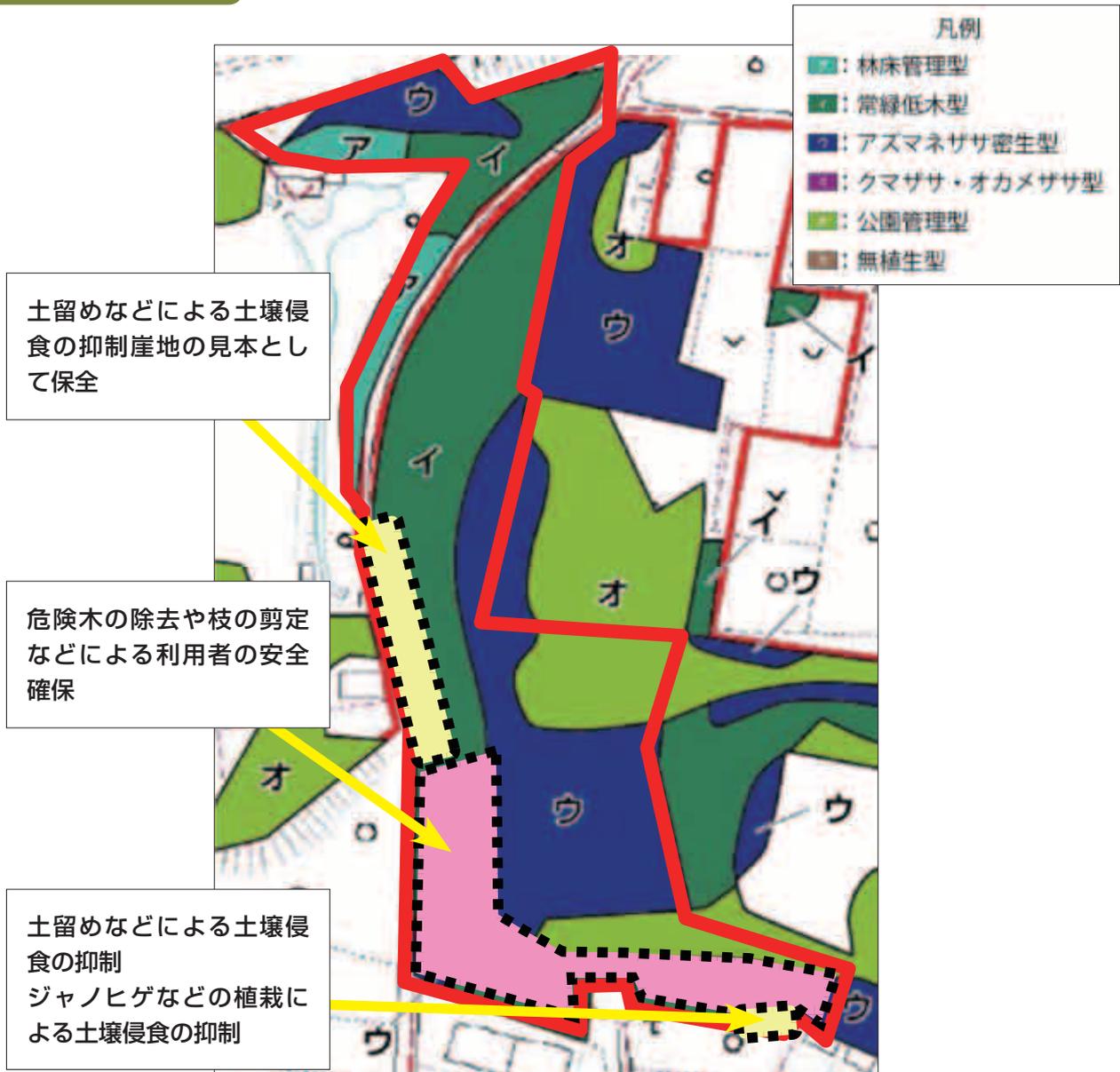
## ゾーンの方針

- ・常緑の低木は密度が高くなるないように適宜間引く
- ・アズマネザサが拡大しないように草刈りを行う



ゾーニング計画（全体）

## エリアの方針



樹林保全ゾーンの保全計画図

### ③レクリエーション・里山ゾーン

#### キャンプ場でのレクリエーションや農作業を通じて里山体験ができるゾーン

##### ○管理上の課題

- ・台風などの影響で、倒木や落枝が生じる可能性がある。
- ・急傾斜地やオーバーユースによって表土が流出している。

##### ○保全管理の目標

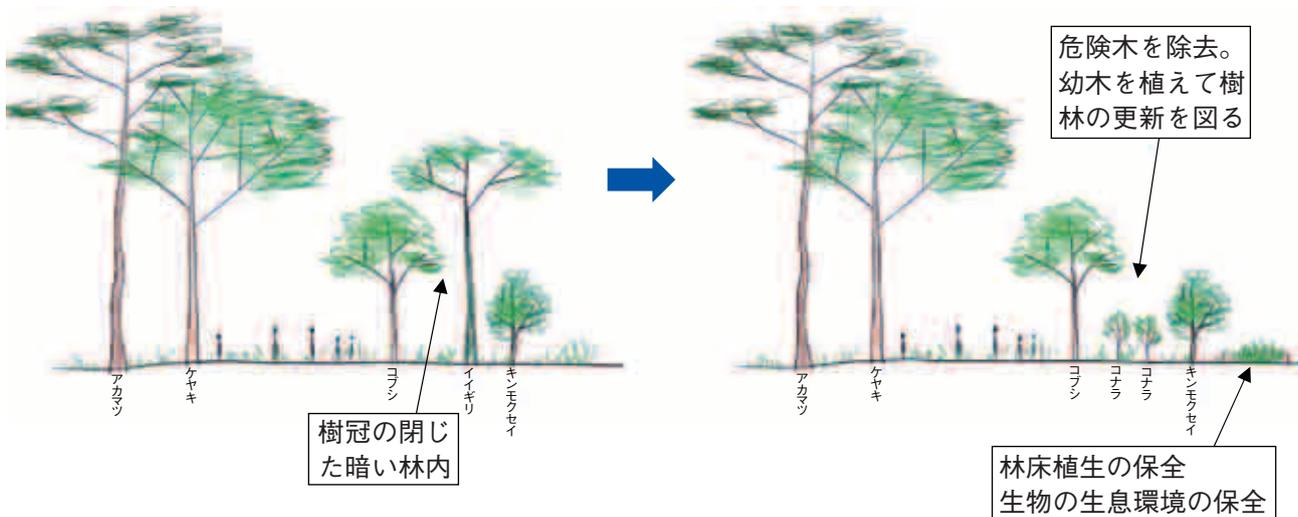
- ・コナラが主な構成種である雑木林。
- ・林床は、人が利用しやすい草丈の低い草地。
- ・林床の貴重な植物が保全されている場所。

##### ○保全管理の方針

- ・倒木や落枝などを除去し、利用者への安全に配慮する。
- ・危険木や倒木を除去した後は、コナラの実生を移植して、コナラ林を更新する。
- ・貴重種の保全を市民と協働で行う。
- ・急斜面からの土壌浸食を抑える。

現状の植生と景観

樹林の構成種	林床の状態	現状（特徴的な景観）
コナラ群落, 植栽樹林群	アズマネザサ密生型 公園管理型型	

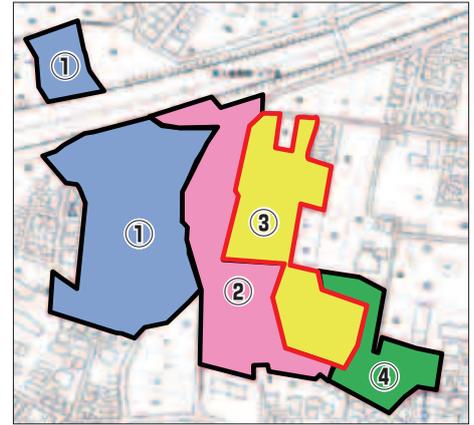


現状断面模式図

将来像断面模式図

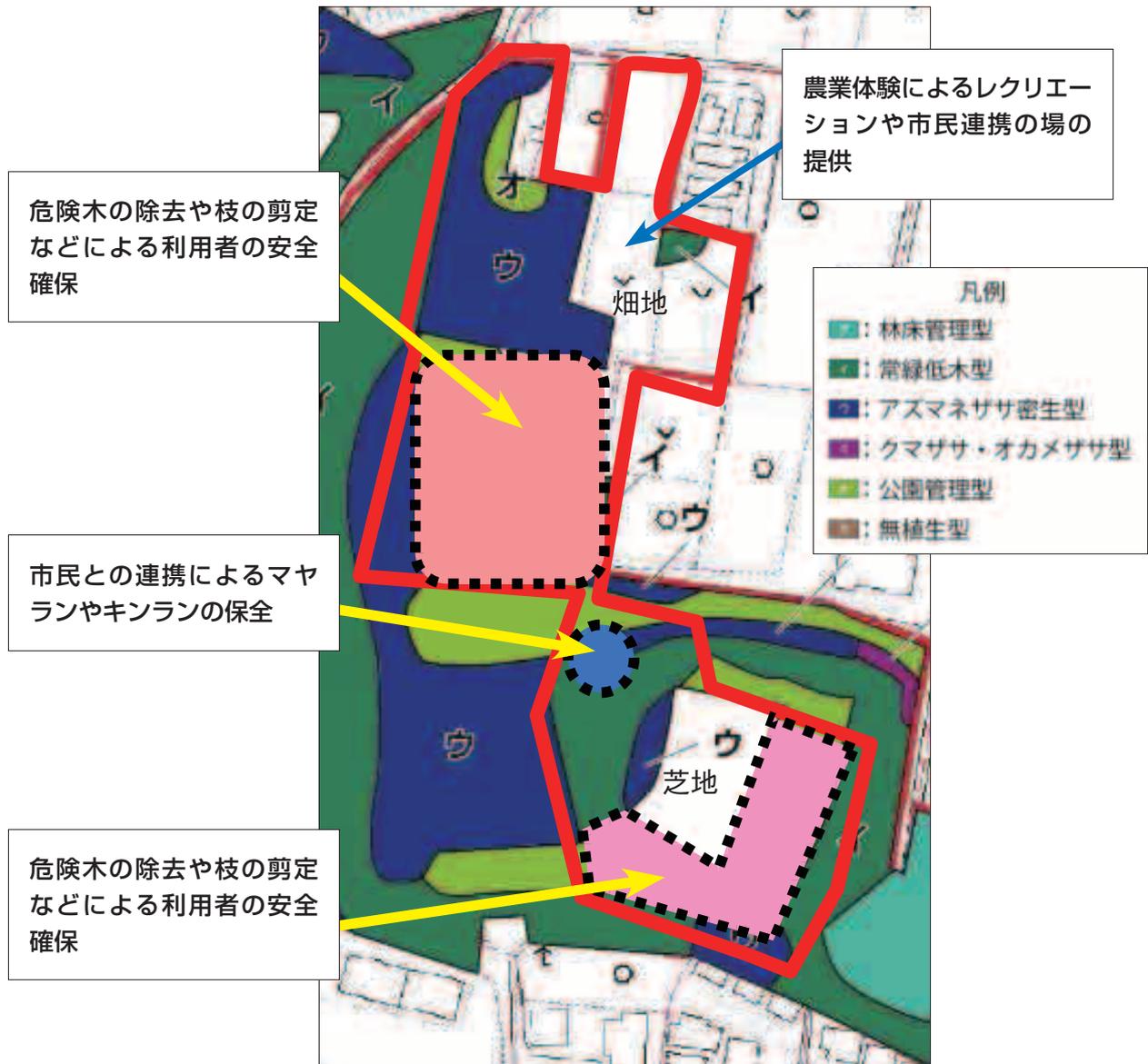
## ゾーンの方針

- ・利用者の安全に配慮し危険木の除去や枝の剪定を行う
- ・アズマネザサが拡大しないように草刈りを行う



ゾーニング計画（全体）

## エリアの方針



レクリエーション・里山ゾーンの保全計画図

#### ④ 保全管理・体験ゾーン

### 保全団体などとの協働による雑木林の管理と市民の雑木林管理の体験学習ゾーン

#### ○管理上の課題

- ・台風などの影響で、倒木や落枝が生じる可能性がある。
- ・コナラなど樹木が大きくなりすぎて、萌芽による樹木の更新が難しい。

#### ○保全管理の目標

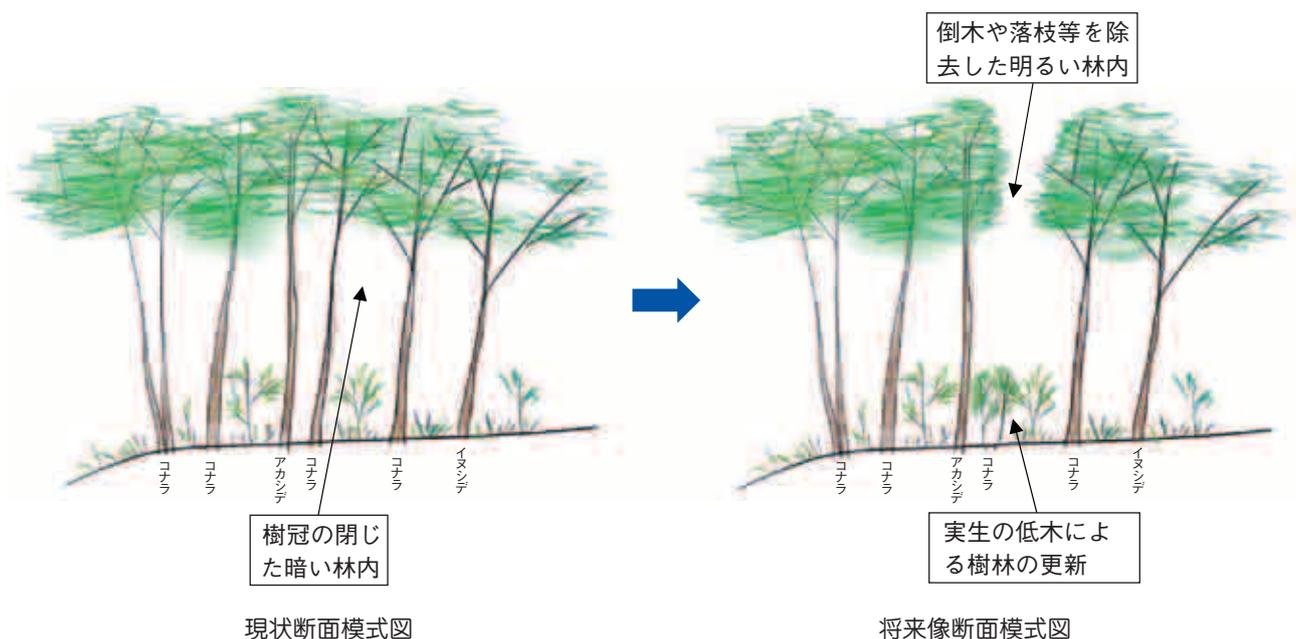
- ・コナラが主な構成種である雑木林。
- ・コナラの実生の捕植などにより、樹木の更新が行われている雑木林。
- ・下草刈りによって管理されている雑木林の林床植生。

#### ○保全管理の方針

- ・危険木や倒木を除去した後は、コナラの実生を移植して、樹木の更新を行う。
- ・草刈によって林床植生を保全する。
- ・保全団体などとの協働により雑木林の管理を行うとともに、市民が雑木林管理を体験できる場とする。

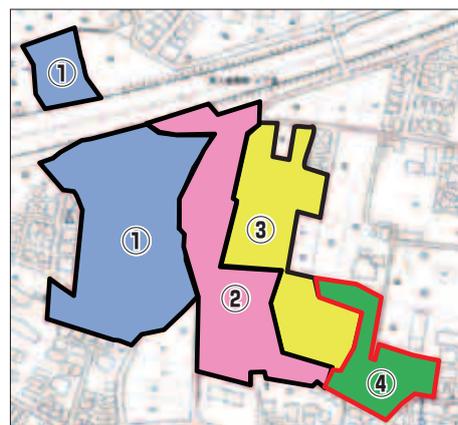
現状の植生と景観

樹林の構成種	林床の状態	現状（特徴的な景観）
コナラ群落, 先駆低木群落, 植栽樹林群	林床管理型 常緑低木型 クマザサ・オカメザサ型 アズマネザサ密生型	



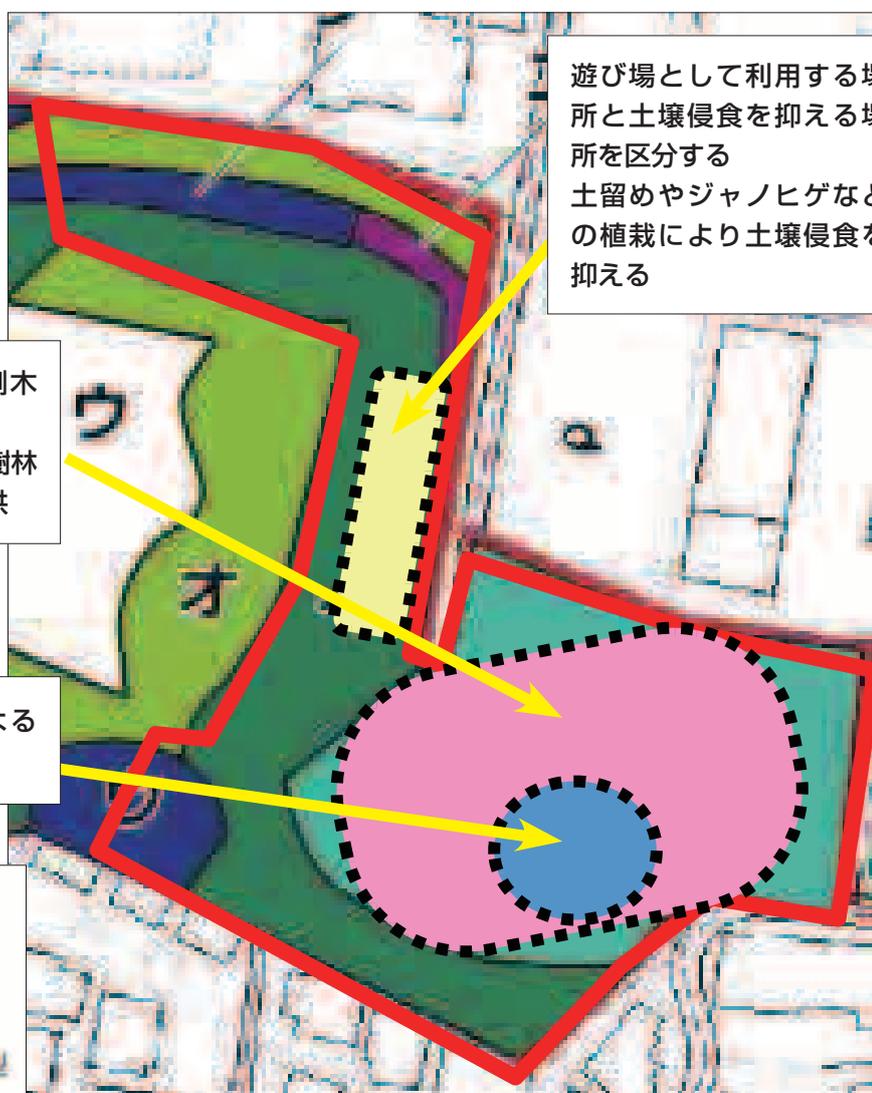
## ゾーンの方針

- ・ 樹林は現在行っている管理を続ける
- ・ 常緑の低木は密度が高くなるないように適宜間引く



ゾーニング計画（全体）

## エリアの方針



遊び場として利用する場所と土壌侵食を抑える場所を区分する  
土留めやジャノヒゲなどの植栽により土壌侵食を抑える

市民との連携による倒木の除去  
実生苗による樹林更新樹林  
保全活動体験の場の提供

定期的な下草刈りによる  
林床植生の保護

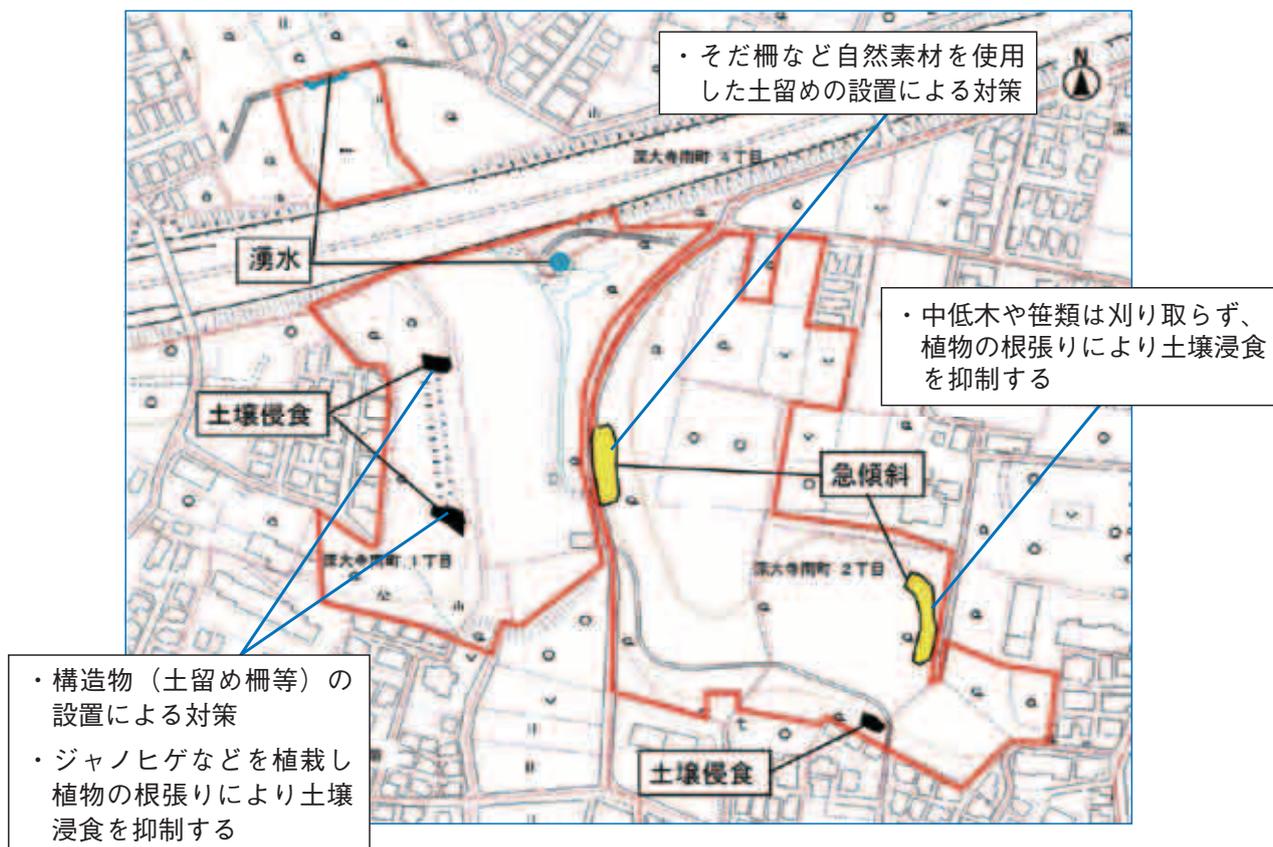
### 凡例

- ：林床管理型
- ：常緑低木型
- ：アズマネササ密生型
- ：クマササ・オカメササ型
- ：公園管理型
- ：無植生型

保安全管理・体験ゾーンの保全計画図

## ⑤ 土壌侵食及び急傾斜地への対策

計画地内では、土壌侵食が3か所、急傾斜地が2か所確認されており、利用者及び周辺住民に対する安全性に配慮した下図に示すような対策が必要と考えられます。



## ⑥ 管理スケジュールの検討

今後10年間の樹林管理スケジュールおよび年間の管理スケジュールを右ページの表に示します。

年間の管理スケジュールは、現在行われている樹木や林床の管理を基本とし、落枝や倒木など安全性確保のための管理は、年間を通じて行っていきます。

枯れ枝や腐っている部分がないかなどの点検は毎年行い、専門家による樹木診断調査は、5年に1度程度を目途に行うことを目指します。

雑木林の更新用に実生を育成し、倒木があった場所などに移植することを検討します。雑木林の更新は、市民との共同作業で行っていくことを今後目指します。

ここに示したスケジュールは計画地全体の管理スケジュールであり、ゾーンごとの管理スケジュールは、計画の進行と現況に合わせて設定していく予定です。

表 今後10年間の樹林の管理スケジュール

対象	管理作業内容		1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目	
樹林	調査・点検	枯れ枝、腐朽等点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	作業	危険木の除去 (発見次第)											
		枯れ枝、越境している枝等の 剪定(適時)											
		下枝の剪定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		陰樹低木の伐採 (5年ごと)	○						○				
		雑木林の更新 (市民協働作業)	実生育成 開始	育成 2年目	育成 3年目	実生移植							
実生育成 開始	育成 2年目		育成 3年目	実生移植									
										実生育成 開始	育成 2年目		
林床	調査・点検	繁茂状況	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	作業	下草刈り	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		貴重種保全 (市民協働作業)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

表 年間の樹林の管理スケジュール

対象	管理作業内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
樹林	危険木の除去 (発見次第)												
	枯れ枝、越境している 枝等の剪定(発見次第)												
	下枝の剪定		○	○	○	○				○	○		
	陰樹低木の伐採 (5年ごと)			○					○	○			
林床	下草刈り			○	○			○	○				

計画地で見られた貴重種



キツネノカミソリ



キンラン



エナガ

登録番号  
(刊行物番号)

2019-278

調布市崖線樹林地保全管理計画（深大寺自然広場）

発行日 令和2年3月

発行元 調布市 環境部 緑と公園課

〒182-8511 調布市小島町2-35-1

TEL 042-481-7083

FAX 042-481-7550

電子メール midori@w2.city.chofu.tokyo.jp

